

公共交通を 身近に そして便利に

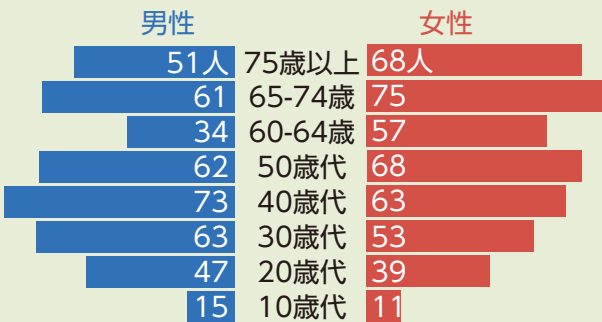
私たちに身近な公共交通である路線バスは、自動車の普及などにより利用者が減少し、取り巻く環境はますます厳しくなっています。ここでは、村民の皆さんにご協力いただいたアンケートの結果をお伝えしながら、今後の公共交通のあり方について考えます。

▼問合せ 企画課地域振興係
☎24-5111(内線141)

村内路線バス利用者数の推移



回答してくださった
あなたの年齢・性別を教えてください



村民アンケート結果

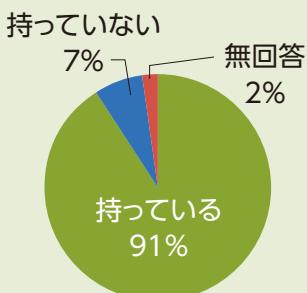
公共交通の今後は？

村にお住まいの18歳以上の方を対象に、各区・年代別に算出した1,000人を対象にアンケートを実施しました。区長さん、班長さんをはじめ、回答いただいた皆さんのご協力に感謝します。

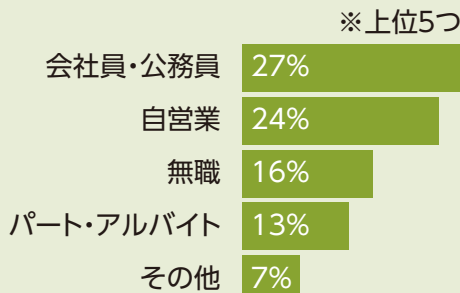
アンケートの結果は、回答率86.2% (862人) でした。各区・年代ともに片寄りなく回答いただいたものを抜粋でお知らせします。



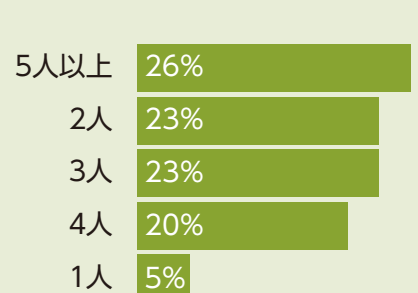
自動車運転免許証を
お持ちですか



あなたの職業は



あなたは
何人家族ですか



超高齢社会の移動手段

公共交通とは、電車やバス、タクシーや飛行機などの交通機関のことです。誰もが一定の料金を支払うことで乗ることができます。村では路線バス(関越交通株)や沼田市などからタクシーが運行されています。近年、これらの公共交通は利用者が減少し、地域の移動手段となる公共交通の維持が困難な状況になりつつあります。

現在は車を運転したり、家族の誰かが送迎してくれたり移動に不自由しないとしても、超高齢社会となった現在では、免許証の返納や家族構成の変化によって、公共交通の必要性がさらに高まることも考えられます。

村民アンケートを実施

こうした状況を踏まえ、村は今年度、今後の公共交通のあり方についてのニーズを把握するため、村民1,000人を対象に住民アンケートを実施しました。

回答いただいた方の世帯構成は、2世代以上が同居する3人以上の割合が最も高く、大多数の方が運転免許証を持ち、車を運転していることがわかりました。

普段の移動については、自分で車を運転して沼田市に買い物に行く方が突出しており、日用品雑貨を買うため「スーパー」「ドラッグストア」「ホームセンター」の順で出かけているようです。

車が中心も将来に不安

移動での路線バスの利用は極めて少なくなっています。

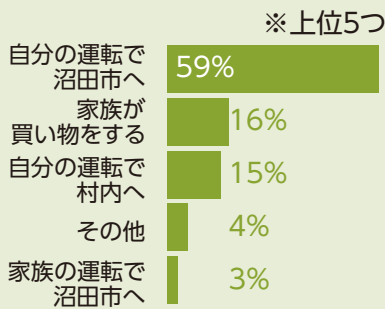
また、路線バスの運行コース以外に住んでいる人でも利用でき、事前に予約して利用する「デマンド交通」の導入については、大半が「利用しない」と回答しました。これは、自分や家族の運転を頼れる状況であることや、自家用車の方が便利とする回答が圧倒的に多く、移動は自家用車という考え方が広く浸透していることがわかりました。

しかし、免許返納については「返納しない」や「わからない」と回答した方々も多く、免許返納による車の運転ができなくなった後の移動手段について不安を感じていることがうかがえます。

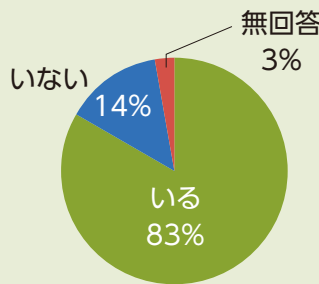
村の公共交通のあり方

今後の公共交通のあり方については、村の費用負担の面からみて、現状の路線バスよりもデマンド交通の

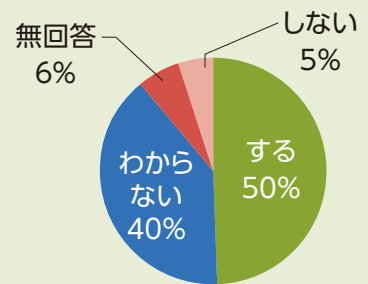
普段、日用品の買い物はどこに行きますか



自動車の運転を頼める同居のご家族はいますか



運転が不安になったら免許証を返納しますか



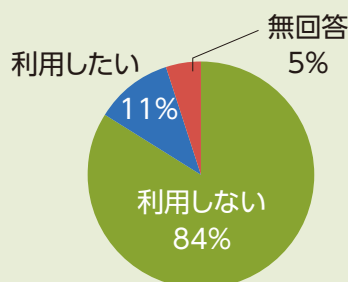
用語解説

デマンド交通とは？

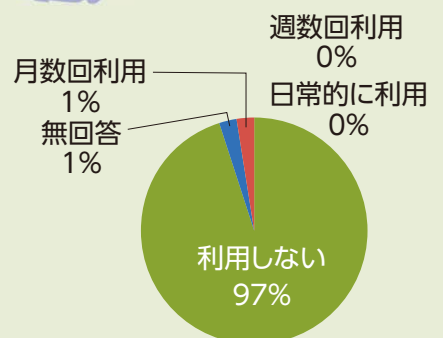
路線バスのように、あらかじめ決まった時間帯に決まった停留所を回るのはなく、利用者の事前予約に応じて、運行ルートや時間を決定して、指定された場所へ送迎する交通サービスです。



デマンド交通を導入したら利用したいですか



普段、バスを利用しますか



村民の皆さんにご協力いただいたアンケートを通じて、現在、村では移動手段が自家用車中心となっている状況であることがわかりました。

しかしながら、数年先、数十年先を見据えて現役世代が安心して

利用しやすい公共交通へ

アンケートでは、全体の7割がこうした機器をすでに持っていることがわかりました。ただし、年代別の内訳では65歳以上の年齢層では、スマートフォン所持率が徐々に低下しています。

デマンド交通など新しい公共交通システムを便利に利用するためには、利用予約をするためのインターネット接続が可能なスマートフォン（スマホ）が必要になります。

スマホを活用して便利に

導入を検討すべきではないか、との回答が大きく上回りました。いずれ車の運転ができなくなった時への不安から、将来は公共交通を利用したいとの回答も多く寄せられており、利用者に寄り添った見直しや工夫が必要とする意見もみられました。

いただいたご意見（一部を抜粋）

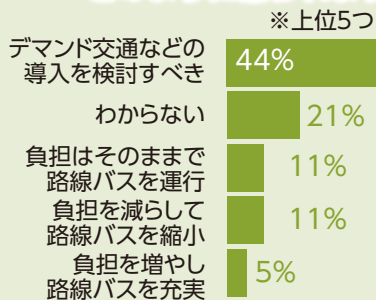
- ・バスの車両を小さく、ルートを細かくしても経費が変わらないのならデマンド交通に切り替えた方がよい。
- ・デマンド交通を導入するなら、岩本駅や利根中央病院発着などもできるとよい。
- ・運転できなくなって、家に閉じこもってしまえば認知症のリスクが高まる。
- ・利便性（料金、目的地、時間など）が合えば、新たな公共交通が利用されると思う。



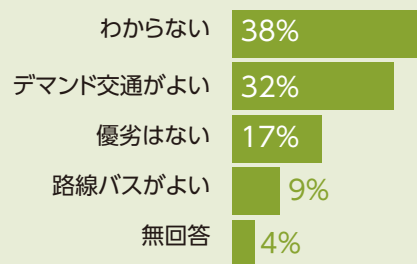
免許返納ができるような、利便性の高い公共交通の実現が求められていることもわかりました。そして、学生や高齢者といった、いわゆる「交通弱者」を対象としたシステムの構築がより一層求められています。

今後は、現行の路線バスを利用されている方々に配慮しながら、デマンド交通などICT技術を活用した新たな公共交通システムの導入について、村民の皆さんにとって便利な交通手段となるよう検討をすすめ、村民の皆さんの暮らしに寄り添った公共交通の実現を目指していきます。

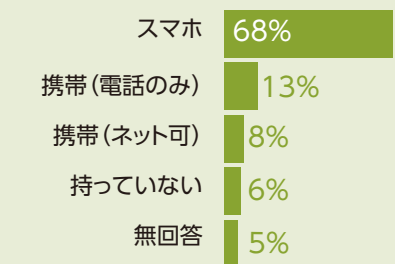
村の公共交通への費用負担についてどのように思われますか



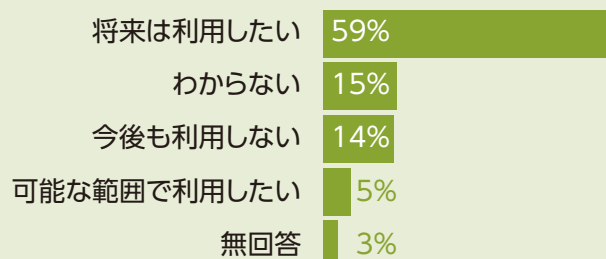
「現在の路線バス」と「デマンド交通」はどちらが便利だと思いますか



デマンド交通の予約手段として有力なスマートフォンなどをお持ちですか



公共交通を維持するためには多くの方に利用していただく必要があることについてどのように思われますか



スマートフォンなどをお持ちですか（年代別の割合）

